

Cello Ensemble Nakajima 2026
Cello Ensemble Nakajima 2026



スズキ・メソード 中島顕クラス

青少年文化センター
(アートピア)



ごあいさつ

本日は「Cello Ensemble Nakajima 2026」にお越しいただき、誠にありがとうございます。

2003年の第1回から、2009年、2014年、2018年と定期的に関催してまいりましたが、今回は8年ぶり、5回目の開催となります。

その間、世の中は大きく変化し、これまで築き上げてきたつながりや慣習も変わらざるを得ない状況となりました。どのようにすればよいのか苦慮している中、OB・OGの方々から「そろそろアンサンブルをまたやりましょうよ」と声をかけていただいたときの、何とも言えない気持ちは今も記憶に残っています。

今回も、OB・OGの皆さんが全国から馳せ参じてくれました。久しぶりの開催ということもあり、メンバーの年齢差はこれまで以上に広がりましたが、ひとたび練習の場に集うと、それぞれの年代や時代背景を超えた共通の感覚が自然と生まれてきます。ふるさとに帰って今一度原点を確かめ合う集まりとなるならば、これ以上の幸せはありません。「音楽を通して」育ち合う、音楽の力を最も感じられるひとときです。

本日は、その“絆の響き”をどうぞお楽しみください。

「音楽は世界を救うであろう」

1961年、スズキの子どもたちの演奏を聴いた後に、パブロ・カザルスが残した言葉です。

チェロのみならず、人間としての生き方の師でもあるカザルスのチェロアンサンブル作品「サルダナ」を皮切りに、今回の「カニグーの聖マルタン祭」で全曲達成となります。

奇しくも今年は、パブロ・カザルス生誕150年にあたります。

カザルスが強く願っていた世界平和への祈りを込めて演奏いたします。

最後に、本日のコンサートにご参加の皆さまはもちろんのこと、開催にあたり、離れた拠点での練習や毎週末の練習を支え、曲づくりや指導に尽力してくれたOB有志の皆さま、そして裏方として細やかな配慮と多大なご協力をいただいた皆さまに、この場を借りて心より御礼申し上げます。

中島 顕



チェロアンサンブルナカジマ2026 開催にあたり

本日はお忙しい中アンサンブルナカジマ2026にお越しいただき誠にありがとうございます。

前回から実に8年ぶりの開催となります。本来であればもっと早くに皆様とこの時間を共有できるはずでしたがコロナ禍という未曾有の状況の中で一度は計画が頓挫いたしました。それでもこうして再び仲間が集まり皆様の前で演奏ができることを心よりうれしく思っております。

アンサンブルナカジマの“ナカジマ”とは東海地方で半世紀にわたり子ども達にチェロをご指導されている恩師、中島顕先生のお名前。その教え子が世代を超えて一堂に会しチェロアンサンブルをご披露します。メンバーには卒業後プロの音楽家として活躍する人、音楽を離れ各分野で社会に貢献する人、そして現在生徒として日々研鑽を積んでいる子どもたちがあります。

先生のご指導は技術の習得のみならずチェロを通して豊かな人間性の育成に大きく寄与しているといえます。...が、当の我々からすると妥協を知らない中々おっかない先生でして、その愛情深くも厳しいご指導に耐えたからこそ生まれた我々の団結力は強く、この大同窓会が実現した原因の一つなのかもしれません。

しかし練習合間の思い出話は笑い話ばかり、とても楽しい時間が過ごせました。これも先生のお人柄なのかもしれませんね。

さて今回はミシェル・コレットからパブロ・カザルスまで18世紀～20世紀の音楽をお届けします。時代ごとに異なる表現がありながらも一貫した音楽愛が十分に詰め込まれた曲ばかりです。同様にそれぞれの歩みや背景は違えども年代を超えて集まった我々が先生から一貫して教えられた音楽愛が今日皆様に少しでも届けられればこの上なく幸いです。

最後にコンサートを開くにあたり関わっていただいた全ての皆様に心より感謝します。そして中島先生、1年遅れの喜寿と開講55周年おめでとうございます。いつまでも愛情深いおっかない先生でいてくださいね。

チェロアンサンブルナカジマ2026事務局委員長 浅田 頼和



東京事務局のご挨拶 ～次の世代につなげるために～

名古屋・岐阜で育った中島クラスのみなさんですが、現在は関東に暮らす方々も多くいらっしゃいます。普段は名古屋に集まって練習するのですが、東京でも12月と3月の2回、長谷部一郎さんご指導の元、みっちり練習することができました。

中島クラスの魅力のひとつは、やはり「積み重ねる力」。とにかく集まって何度も何度も合わせる。反復練習を繰り返していくことで音が精錬され、周りの音も聴こえてくる。息を吸うように弾けるようになると、さらに感情を込められるようになる。合わせるたびにどんどん上手くなっていく、その圧倒的な成長の過程を間近に見ることができました。

そんな中、今回、新しく企画したのは「Instagram」です。

プロの皆様インタビューをしたり、練習風景を撮影したりして、コンサート本番に向けてボルテージを上げるための取り組みとして始めました。でも、このインスタは、今回のコンサートのためだけの一時的なものにとどまらず、今後、中島クラスの輪をさらに広げていくためのツールになればと思っています。昔の動画を見て懐かしいと思える。それを見て久しぶりに戻ってくる人もいます。知り合い同士がつながる。そして、中島クラスの若いみなさんが、さらにその先の未来のチェーンを繋げていく。そんなインスタになったらいいなあという想いです。

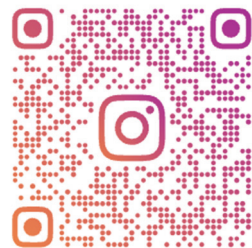
(投稿：吉田紘子さん/インタビュワー：村山奈津子さん・矢島華那さん他)

ご来場頂いたみなさま、ぜひこちらのインスタをフォロー頂けると嬉しいです。

そして今後も中島クラスを温かい目で見守り続けて頂けると幸いです。

江村 出

ぜひご登録をお願いいたします



CELLO_ENSEMBLE_NAKAJIMA

プログラム Program



I フェニックス / M・コレット

Le Phénix / Michel Corrette

II 二つの小品 / J・クレンゲル

Two Pieces / Julius Klengel

III ブラジル風バッハ 第1番 / H・ヴィラ＝ロボス

Bachianas Brasileiras No.1 / Heitor Villa-Lobos

～ 休憩 ～

♪ 鈴木指導曲集メドレー マルチェロのソナタ/ダンスラスティック/アリオーソ ♪

〈ソロパート出演者〉

杉村 栄洵/高橋 結子/梶田 はるか/藤原 凧子
大久保 幸寛/森林 祥/杉本 美和/原 周史/森林 櫻

IV ディヴェルティメント ニ長調 1・4楽章 / J・ハイドン

Divertimento in D Major 1・4 Mov. / Joseph Haydn

V 三つのチェロとコントラバスのためのソナタ ハ長調「小品の組曲」WV445/

G・C・ヴァーゲンザイル

*Sonata for Three Cellos and Double Bass in C Major, "Suite des pieces" WV445 /
Georg Christoph Wagenseil*

VI カニゲーの聖マルタン祭 / P・カザルス

Sant Martí del Canigó / Pablo Casals





曲目解説

PROGRAM NOTE

I フェニックス / M.コレット

Le Phénix / M. Corrette

ミシェル・コレット(1707-1795)は、現在のフランス北部の都市ルーアンに生まれ、オルガニスト、音楽教師、作曲家、編曲家として多方面に活躍しました。非常に多作な音楽家でもあり、オルガン協奏曲、さまざまな楽器のための小品やソナタ、宗教声楽作品など、当時の幅広い声楽・器楽ジャンルに作品を残しています。《フェニックス》は1735年頃に出版されたとされ、当時としては珍しく、4台のチェロ、あるいは4台のヴィオールやファゴットによって演奏される作品です。バロックから古典派への過渡期に生きたコレットは、バッハの《無伴奏チェロ組曲》に象徴されるように、独奏楽器としての存在感を増しつつあったチェロの新たな可能性を、この作品に見いだしていたのかもしれません。

曲は、流れるような旋律と華やかな装飾音によって彩られた第1楽章、どこかイタリア・オペラを思わせる美しい第2楽章、そして軽快な舞曲風の第3楽章から成ります。演奏会の幕開けにふさわしい、流麗で生き生きとしたアンサンブルをお楽しみください。

(西尾 彰紘)

II 二つの小品 / J.クレンゲル

Two Pieces / J. Klengel

ユリウス・クレンゲル(1859-1933)は、ドイツのライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の首席奏者を長年務め、独奏者、室内楽奏者として活躍した名チェリストでした。またライプツィヒ音楽院でも教鞭をとり、のちに名チェリストとして名を馳せるフォイアマン、ピアティゴルスキーら多くの優れた後進を育てたことでも知られています。日本のチェロ奏者・指揮者・教育者として多くの優れた音楽家を育てた斎藤秀雄も、1922年から27年まで同音楽院でクレンゲルに師事しており、日本のチェロ界にも大きな影響を与えています。クレンゲルは作曲家として主にチェロのための作品を数多く残しており、なかでも「12台のチェロのための『賛歌』」はチェロ・アンサンブルのための重要なレパートリーとして現在でも広く演奏されています。本日演奏する「4本のチェロのための2つの小品 Op.5」は、穏やかな静寂の中で親密に語られる「セレナーデ」と、対照的に気まぐれに次々と表情を変化させる「ユーモレスク」の2曲から構成されています。楽器の特性を熟知したクレンゲルならではの、4パートのチェロが織りなす豊潤な響きをお楽しみください。

(高橋 弘治)



Ⅲ ブラジル風バツハ 第1番 / H.ヴィラ=ロボス

Bachianas Brasileiras No.1 / H. Villa-Lobos

1932年の作曲。8本のチェロのために書かれ、Ⅰ序奏、Ⅱ前奏曲、Ⅲフーガの3つの楽章から成る。

序奏と言うにはあまりに立派な第1楽章は、目の覚めるような不協和音の後、チェロの最低音のドを起点とする、心を揺さぶるような主題で始まる。ピアニストA.ルービンシュタインの自伝に、ブラジルの映画館でチェロを弾いていたヴィラ=ロボスへの言及があり、この冒頭を聴くだけで、チェロを知悉した作曲家が書いていることがよくわかる。

ハ短調の劇的な主題、穏やかなヘ長調の旋律(ラテンのリズムが現れる)、英雄的な変ホ長調のフレーズ、見事と思う。

Ⅱ前奏曲とⅢフーガはもちろん、バツハの前奏曲とフーガ(平均律、という名前で知られているでしょうか)を意識したものと想像する。

前奏曲は全パートがレの音で始まり、花が開くように、すぐに音が広がっていく。不穏な中間部を挟み、再び全パートがレに集まって終わる。

フーガの主題は八分音符のアップビートで始まるけれど、その弱拍は強く弾くよう指示され、いかにもブラジル風と感じられる。4小節の主題がそれぞれ4つのパートに現れた後、主題の縮小と拡大を経て、変ロ長調に解決し、最後は全パートがシ♭に集まって終わる。

(長谷部 一郎)

Ⅳ ディヴェルティメント 二長調 1・4楽章 / J.ハイドン

Divertimento in D Major 1・4 Mov. / J. Haydn

「交響曲の父」ハイドンがその生涯で最も多くの曲を残した室内楽ジャンル、それが120曲を超える「バリトン三重奏曲」です。「バリトン」とは18世紀に貴族の間で愛された弦楽器で、ヴィオラ・ダ・ガンバのような形状に加え、裏側には指で弾くとハーブのような音が出る金属製の共鳴弦を備えており、その神秘的な音色が愛好されていました。ハイドンの主君ニコラウス・エステルハーージ侯はこの楽器をこよなく愛し自らも演奏したため、主君を楽しませるべくこれほどまでに膨大な数の楽曲を書き上げたのです。

さて本日は、本来「バリトン、ヴィオラ、チェロ」という編成で書かれたこの宮廷音楽をチェロアンサンブル版でお届けします。前半に演奏するAdagio(第113番 二長調 第1楽章)は、ハイドンの敬虔な祈りが形になったような情感豊かな緩徐楽章です。チェロが織りなす濃密なハーモニーはバリトンの繊細な響きとはまた異なる、人間の声に近い温かさと深みを持って聴く人の心を満たします。続くFinale: Vivace(第81番 二長調 第3楽章)は、宮廷の娯楽を象徴するような軽妙で快活な終曲です。楽器同士が追いかけ合い弾むように対話する様子は、ハイドンらしいユーモアに溢れています。チェロならではの豊かな音色と響きを通じ、かつて宮廷で楽しまれていた密やかで贅沢なひとときをお楽しみください。

(伊藤 祐三郎)



V 三つのチェロとコントラバスのためのソナタ ハ長調「小品の組曲」WV445 / G.C.ヴァーゲンザイル

Sonata for Three Cellos and Double Bass in C Major, "Suite des pieces" WV445 / G. C. Wagenseil

ゲオルク・クリストフ・ヴァーゲンザイル(1715～1777)は、オーストリアの作曲家、鍵盤楽器奏者です。生涯のほとんどをウィーンで過ごし、宮廷に仕えました。今ではあまり耳馴染みのない音楽家ですが、ウィーン古典派の先駆け人物で当時は重鎮だったようです。シンフォニーやコンチェルト、室内楽曲、鍵盤楽器のための作品やオラトリオやミサなどあらゆるジャンルに夥しい数の楽曲を残しています。

モーツァルトの父、レオポルドが子供達に練習のために与えていた〈ナンネルの楽譜帳〉の中にヴァーゲンザイルの作品も収められています。モーツァルトもヴァーゲンザイルの曲に親しんでいたと思うと、親近感が湧いてきますね。

さて今日演奏するソナタ「小品の組曲」は、バロック時代に流行した「舞曲で構成された『組曲』」とは異なり、華やかなVivace～メランコリックなLarghetto～唯一の舞曲Menuet～愉快的Vivaceの4つの小品から構成された、より軽快で華やかな様式となっており親しみやすい作品になっています。 (小澤 由季野)

VI カニグーの聖マルタン祭 / P.カザルス

Sant Martí del Canigó / P. Casals

生誕150周年を迎えたカザルスがチェロアンサンブルの為に書いた「サルダナ」と言う楽曲をご存知でしょうか？

サルダナとはカザルスの故郷であるカタルーニャの民族舞踏の形式の名前で、輪になって踊るために団結や平和の象徴と言われています。

そのサルダナの形式で書かれたのが今日演奏するカニグー山(カニグーのサン・マルタン祭)です。

カニグー山は地理的にはスペインのピレーネー山脈にあり「カタルーニャの富士山」とも呼ばれ、カタルーニャ文化・精神の象徴であり聖なる山としても知られています。

作品の中でもカニグー山はカザルスの自由な精神性はもちろんの事、彼の祖国カタルーニャの精神の永遠性、普遍性としても描かれています。

カザルスがフランコ独裁政権に抗議して亡命したブラドでこの曲は生まれ、1960年前後から自身の指揮によって各地で演奏された記録が残っています。また、カザルスの国連での有名なスピーチの理念と完全に一致した作品である事から平和への象徴的作品となりました。

独裁政権と言う文字を読むと遠い昔の話かと思うのですが、カザルスが作曲して70年近く経った現在の世界はどうでしょうか？

今日、中島先生を頂点とした70年を超える世代の鎖が奏でる演奏を聴いて頂き、カザルスが世界平和を願って書いた精神的遺言に深く想いを馳せるきっかけになる事を願っています。 (山本 裕康)





Member

山本 裕 康



中島先生、御指導歴 55 周年誠にとおめどう御座います。僕の生き方をデザインして頂いたと共に節目節目で常に見守って頂き、感謝という言葉では到底片付けられません。数年前よりスズキ・メソードのお手伝いをほんの少しさせて頂いておりますが、そのお手伝いと勤務先である東京音大にて若い生徒さん達に知りうる全てを伝える事で中島先生への恩返しとさせて頂き下さい。

それをする事によって、中島先生から教えて頂いた多くの事が永遠に伝承されると信じております。

浅田 頼 和



「お稽古が始まったら途中で辞めることはできないからね」先生のこの言葉から僕の中島クラスはスタートした。そこから生徒で 9 年、子供ができて親として再び教室に戻って 25 年このクラスにお世話になった。この界限では「出来の悪い奴ほど長く居る」なんて笑い話があるがこれがどうやら本当らしく僕はトップレベルで出来が悪い。あまりに下手すぎて 10 分で帰されたレッスンもある。まさかこんなに辞められなくなるとは…。でもおかげで今日一緒に演奏する仲間をはじめ多くの素晴らしい人達と出会えた。出来の悪いのも捨てたものではない。～ある日の OB 飲み会にて～ 「先生喜寿 (+1) だって」「元気だねえ」

談笑しながらはたと気づく… 僕も来年は還暦だ。

森 恵 子



コロナ禍で中止となったチェロアンサンブルナカジマの再結成を心待ちにしていました。張り切って練習を開始していましたが、2026 年 2 月に左肩関節唇損傷の手術を受けることになり練習中断。アンサンブルは作り上げていく過程も大きな喜びですが、練習に参加できていない事がとても残念です。それでも一曲でも皆様と一緒できることを願いながらリハビリに励んでいます。1971 年にチェロ活開始。愛知県医師会交響楽団での活動も 20 年目を迎えました。ピアノトリオ (Joy's Trio) も昨年 20 周年記念コンサートを開催することができました。本日は中島先生をはじめ関係者の皆様、そしてこれまで支え応援してくださった皆様に感謝の気持ちを込めて、演奏…できていますように。

松 浦 孝 至



12 年間 中津川教室在籍 現在 蒲郡市の医療機器メーカーに勤める。

6 歳からチェロを始める。現在は、三河地方を中心に東は浜松、西は名古屋まで幅広く市民オーケストラのエキストラとして参加中。

前回の演奏会は残念ながら参加できなかった分、今回参加することができ大変嬉しく思っています。中島先生のご指導を受けた時期は各メンバー様々ですが、一緒に弾くとなぜか音が集まるという不思議な感覚がたまらないですね。

懐かしい顔ぶれと一緒にまた演奏できることに感謝しながら、本番を楽しみたいと思います。

綿 井 靖 子



前々回の参加から早いもので 12 年が経ちました。懐かしい仲間と、懐かしい響きを感じたくて奈良から参加しています。年齢増も幅広く初対面の方も多いのに、まるで実家に帰ったような懐かしさと安心感のある中島クラスの音色に包まれながら、チェロアンサンブルに参加できる幸せを感じています。

最近は近所の弦楽合奏団で弾いたり、介護施設等に季節の歌を演奏しに行ったりと、のんびりチェロを楽しんでいますが、これも昔々中島先生に指導していただいたおかげでありまして本当に感謝しています。

先生いつまでもお元気でいてください。次回も楽しみにしています。

長谷部 一郎



昨年、僕の所属するオーケストラに指揮者レナード・スラットキンさんが来演され、魔法のように音が変わっていく棒と、音楽をすることは "the best thing in the world" で、"anyone can do" と仰った言葉がとても印象的でした。音楽の素晴らしさを経験することは、優れた能力を持つ特別な人だけでなく、「誰でもできる」。世界中で演奏されてきたスラットキンさん(当時80歳)はそう伝えようとしたのではないかと、思います。

中島先生のところでチェロを始めてから50年以上過ぎ、今も日々音楽に魅せられ、そして、音楽とは何だろう、何が音楽の魅力だろう、と問いかけます。今回の演奏会に向けて参加した練習では、普段それぞれの世界で生活している人たちが一堂に会し、音を出します。その時何かを投げかけると、さっと音が変わる。その速さ、鮮やかさは素晴らしいと感じます。

5月5日の舞台にもその鮮やかさが現れますように。

松村 弘之



今回僕にとって3度目のチェロアンサンブル中島になります。

毎回関わり方が変わっていますが、いつも原動力となるのは仲間と現役の子達です。今回参加者の中で1番最後に参加が決まりました。本当は1度も客席で聞いたことがないので今回は念願の客席だと思ってましたが、事務局として少し携わっていたところ本番が近づくにつれて仲間との関わりが増えて、そして現役の子達と関わってしまい練習にも顔を出してしまい.....これはもう弾くしかないですね。みんなとの演奏を心から楽しみたいと思っています。

本橋 裕



昨年9月にスタートアップしてから、まさにコツコツと準備を重ねてようやく本日のお披露目を迎えることができました。ご協力頂きました関係者の方々に心から感謝申し上げます。

いま、7才の息子が中島クラスでお世話になっています。キラキラ星からはじまるお稽古で学ぶことがこれからお聴きいただく作品の音ひとつひとつに込められています。「出来たら?あと10回練習。」を不言実行する現役生に大いに刺激をもらいながら演奏を楽しみたいと思っています。



梶田 晋



半分冗談の如き駄文を弄することをご容赦頂きたい。

こんなことを言うと年が分かるが、中島先生の10周年コンサートに出た臆げな記憶がある。ユーモレスクを二人で弾いたと思う。それから幾星霜、今はわが子が先生のお世話になっている。生徒として潜った門を親としても潜ったが、幼きわが身に掛けられた因習からの脱却はムツカシイ。端的に、先生が怖い。しかし、改めての入門で一番の驚きは、先生が怒らないこと。わが子はそれでも先生のお怒りを買う。よほどの大物だと捻じ曲げて考えなければ心身が持たない。これも精神の鍛錬と思いながらレッスンの帰路のハンドルを握る。決して往時を懐かしむようなものではない。帰路に聳える漆黒の東山公園が前途を暗示するが、「明けない夜は無い」。この一念が、わが身を奮い立たせて一社に向かわせる。



上 条 卓 史



中島先生の合奏レッスンは厳しかったと記憶してます。練習で手を抜いたところはすぐバレてしまい、しかも容赦頂けないからです。久しぶりにアンサンブル練習に参加し先生が背後に接近されると、今だに背筋がピリッとしてチョッピリ冷や汗がでます。曲が難しい、練習時間ない、の言い訳はきっと許してもらえないでしょう。いくつになっても先生と生徒の関係だと実感し、少し恥ずかしく、でも嬉しく幸せに感じます。この気持ちを胸に、昔お世話になった方々や世代を超えた中島門下の皆様とのアンサンブルの機会に感謝しつつ、もう少し頑張って練習して本番を迎えたいと思います。

小 澤 由 季 野



プログラム 8 年ぶりのアンサンブルナカジマ！今回も懐かしくも素敵な面々が集い昨年秋より練習を重ねてきました。難曲揃いでフーフーいながらの譜読みとリハーサルの数々。この数年世界のあちらこちらで戦火が飛び交い目を覆いたくなる惨状が多い中、中島クラスで育った愛すべき皆さんと音を重ねて大曲に挑めることを幸せに感じます。リハーサル中、中島先生が「私たちはプロでもなくアマチュアでもなく、中島クラスです！」と仰ったことが印象的です。この春旅立った父へ感謝を込めて、そして世界平和を祈りながら、私達にしかできないアンサンブルを皆様にお届けできれば嬉しいです。

高 橋 弘 治



中島クラス開講五十五周年、そして中島先生の喜寿を心よりお祝い申し上げます。三歳から先生のもとでチェロをはじめて、気がつけば私も五十歳を過ぎました。私が今日まで「音楽の道」を歩み続けてこられたのは、常に傍で音楽を育み導いてくださった先生と、チェロを通して共に泣き笑いながら練習に励んだかけがえのない仲間が存在があったからです。世代を超えて先生のもとで学び、繋がっている仲間たちと音楽を奏で、共有できる時間は、格別でこの上ない幸せな瞬間です。先生への感謝、仲間への感謝、そして両親への感謝を今日の演奏に込めて。皆様と共に、この喜びを分かち合いたいと思います。

伊 藤 岳 雄



言葉にならない思いをチェロを通して表に出すこと。誰も聞いてくれないから大きな声で叫んだり、誰にも聞こえないように密やかに呟く。
中島先生から「上手く弾くこと」とか「ちゃんと弾けていること」を求められた記憶がない。演奏会の一週間前、まともに通して弾けていなくても「君はその音で良いのか」しか問われなかった様に思う。全身全霊で音楽と向き合っているのかだけが中島先生のレッスンだった。
「私たちはこれで良いのだ」、「これが全身全霊の音楽なんだ」と先生に認められたくて、今日も必死でチェロを弾くしか無いのである。

中 村 裕 美 子



第1回以来、久しぶりに参加します。譜面から目を上げると、そこにはよく知る人もそうでない人も、みなチェロをひき、なんとなく動作がシンクロする練習風景。音楽の根っこを共有する人たちとの演奏は、不思議に心がわきたちます。おかげで学生時代には難しすぎたと思ったあの曲も、懐かしい曲も、初めての曲も、どれも楽しく練習できました。この企画に関わってくださったすべての方へ、また休日の度重なる母不在を認めてくれた家族に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。
これからも、先日先輩の練習で聞いた、“人生において何かを学ぶのに、今からでは遅すぎるなんていうことは一つもないでしょ？”という言葉を糧に、少しでも前進したいです。皆さま、遠からずまたご一緒できますように！



白石 朋 広



初の参加になります。前回公演、見事に心を揺さぶられ念願の参加となりました。地元を中心に演奏活動をしてきましたが、ここ数年は多忙につき少しチェロから離れていました。そんな中この公演のお話をいただき、無謀にも2つ返事で引き受けてしまいました。さすが中島クラス、手強い曲揃いで頭がクラクラします。何度も挫折そうになりましたが自分にも中島クラスのプライドがあります、精一杯頑張りました。30年ぶりの中島先生は変わらず（いや、穏やか?）、その暖かい笑顔が懐かしく、またご一緒できることに幸せを感じています。

中 島 有 也



企業や著名人がファン獲得を目的としたコミュニティ形成に奔走する時代。名古屋には半世紀前からゆっくり力強く育まれてきた場所があります。作為的な戦略ではなく中島先生の教育信念と熱意を土台に、数十年の歳月が編み出した世代を超えたこの「繋がり」こそ、コミュニティの本質的な姿と言えるでしょう。父がスズキ・メソードを通じて貰ってきたのは、単なる技術習得ではなく人を育てるという揺るぎない信念でした。国内外の演奏家から各界の最前線で情熱を傾ける専門家まで。異なる道を歩んだからこそ、この集団が持つ多様な強さと父の真意を実感します。人生が重なり合って生まれる懐かしい響き。半世紀の歴史が紡ぐ音色をどうぞお楽しみください。

野 津 健 次 郎



前回出演できず、久々の出演です。関東在住なので、練習にもなかなか参加できずご迷惑をおかけしましたが、本番は楽しみながら弾ければと思います。世代もさまざま、今の生活状況もさまざまな中で、中島先生という旗の元に集まって、このように音を合わせられるのはこの上ない喜びです。ご来場いただいた皆様に少しでもチェロって素敵だなと思っていただけたら幸いです。



江 村 出



総合系コンサル（アビーム→アロイト→EY）としてサラリーマン人生を送りながら、ビジネス書『仕事を上手に圧縮する方法』『6か月で結果を出す仕事術』を出版。仕事に打ち込み、色んな景色を見れたのは、まぎれもなく幼い頃からチェロの練習で培った「努力は裏切らない」考えが土台にあります。今回の演奏に向き合う中で強く感じたのは、「情熱」と「冷静さ」の両立の難しさ。アツク弾きたい。でも冷静にならないとズれる、間違える。でもアツク弾きたい。これを補完するのはもちろん努力。「一万時間の法則」をご存じですか？何かの分野で一人前になるためには最低一万時間を費やす必要があると言われる。みんな小さい頃から10年も20年もチェロに関わってきた人たちばかり。ただ楽しく弾くだけでは終わらせない。そんな覚悟も少し入り混じった演奏をお楽しみください（笑）。



深 谷 剛



小さい頃は何よりレッスン嫌いで早く辞めたいと思った時期もありましたが、いつの間にか楽器を弾くことが好きになり今や仕事合間のオーケストラ活動がライフワークになってしまいました。

レッスンで染みついたことは鍛錬と目的意識。表面的に上手く弾くことよりも、どう演奏したいのか、それは何のために？常に内面を問われていたような気がします。音楽は元より全てに活きる大事な財産です。

今回のプログラムも相当大変でしたが出来る限りを尽くそうと思います。

吉 田 穰



2歳半から覚王山教室に通いはじめて、気付けば音楽に携わる仕事をしながら、今でも時々チェロを弾いています。小学2年生になる次男も、一昨年から東京で佐藤満先生の教室に通うようになり、ピアノを習う長男とヴァイオリン弾きの妻とで、家族でアンサンブルが出来ることを夢見て、子育てに仕事に追われる毎日です。目下の悩みは、昨年8月に産まれた長女に、何の楽器を弾かせようかということですが、。

久しぶりのチェロアンサンブル、精一杯楽しんで、良い音楽を届けられればと思います。

片 山 絵 美 子



大学時代はオーケストラ部に所属。現在も時折社会人オーケストラに参加させていただいています。現役の頃のように毎日練習することはなくなりましたが、今もチェロを続け、今回初めてチェロアンサンブルナカジマに参加できることをとても嬉しく思っています。卒業から年月が経っても同じ思い出を語り合い、演奏を通して一つになれることを幸せに感じています。

中島クラスの皆さんとともに音楽を作り上げられることに感謝し、心を込めて演奏します。

大 岩 立 学



覚王山教室の大岩です。3歳の頃からチェロを習い始め高校3年生までの15年間、中島先生の下でお世話になってきました。チェロの事はもちろんですが、挨拶や礼儀など沢山のことを学ばせて頂き、子供の頃は「厳しいなあ…」と思う事も沢山ありましたが、今ではとても感謝しています。また、幼い頃からの気心の知れた友人達と海外の演奏会に参加したり、とても充実した日々を過ごすことが出来ました。

長い間チェロを習わせてくれた両親、特に毎週土曜日に豊橋から名古屋まで車を走らせて教室まで送ってくれた母にはとても感謝しています。就職等で長らくチェロから疎遠になっていましたが、今回またこのチェロアンサンブルに誘って頂き、懐かしさとチェロの楽しさを噛み締めています。本日はチェロの心地よい音色を楽しんで下さい。



2025 年 年末の合宿



吉田 紘子



「まさか紘子ちゃんがここまでチェロにハマるとは…！」つい先日、中島先生からいただいたお言葉です。家での練習はサボるのに、レッスンで弾けず泣くことも多かった私。中学受験や松本への転居など、やめるタイミングはいくつもありました。それでも細々と弾き続けてきて、気がつけば30年。中島クラスでの15年間は土台となり、大学でオーケストラ部に入部してから、多くの出会いと経験に恵まれました。あの15年がチェロと人生を楽しむための基盤だったのだと思います。ご指導下さった先生、習わせてくれた両親と、支えてくださった皆さまに感謝しています。

実は、このハマりように一番驚いているのは私自身かもしれません！中島クラスの一員としてまたチェロアンサンブルが出来る嬉しさを噛みしめながら、演奏を楽しみたいです。

伊藤 祐三郎



4歳から中島先生のもとでチェロを学び始め、気づけば30歳を過ぎました。子供の頃は練習が嫌で、辞めたいと思ったことも一度や二度ではありませんが、今ではチェロは私の人生においてかけがえのない存在となりました。ここまで続けさせてくれた両親と、根気強くご指導いただいた先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

今日はこれまでの感謝の思いを音色に乗せて精一杯演奏いたします。

さて、今回でチェロアンサンブルナカジマは4度目の参加となりますが、チェロならではの幅広い音域から生まれる重厚なハーモニーには毎回魅了されます。重なり合う豊かな響きの魅力を、皆さまと分かち合えれば幸いです。

天野 実玲



幼い頃から、合奏練習や合宿を共にしてきた中島クラスの仲間たちは、年齢も性別も関係なく、みんな特別な存在でした。今回再び、そんな懐かしい仲間たちや先輩方と共に演奏することができて、とても嬉しく思います。以前に比べて、曲を弾くことに難しさを感じることも多々ありましたが、練習の度に「難しい」よりも「楽しい」の気持ちが上回るのは、やはりみんなと音を合わせることが大好きだからだなあ…と改めて感じています。本日は、そんな喜びの気持ちと、中島クラスをこれまで支えて下さった方々に対する感謝の気持ちを音に乗せて、心をつににした演奏を、みなさんにお届けできればと思います。どうぞ、最後までお楽しみください。

浅田 峻頼



初めまして、浅田の長男でございます。

父の影響でチェロを始め、気がつけば20年もの年月が経ったことに驚いております。

中島クラスでのレッスンを振り返ると、「1週間何をしていたの？」と先生に聞かれ、本当に何もしていなかったのが、答えられなかった記憶ばかりが思い出されます。しかし、そんな厳しいご指導をいただいたおかげで、現在では友人や尊敬できる方々とのご縁が広がり、自分の生活がより豊かなものになっていると感じております。

ここまでの文章が父のものとそっくりなので、締めも合わせたいと思います。僕も来年29だ。





岡 本 淳 平



中島クラスを卒業して約10年。現在は東京で美容師をしています。久々に会う顔ぶれ、僕も含め皆んなおじさんになっているのに、中島先生ただ一人だけ当時となにも変わらないことに驚きを隠せません。今覚え、3歳から18歳まで。チェロはもちろんのこと、むしろそれ以外の大切なことを本当にいろいろと学ばせて頂きました。合宿の夜に皆んなで隠れて卓球をしていたのはいい思い出です。

今では美容師の傍、趣味程度ですが細々とチェロも続けています。一生の宝物を与えてもらいました。今日は当時を一緒に過ごしてくれた仲間、そして中島先生に感謝の気持ちを込めて精一杯演奏します。よろしくお願い致します。

島 崎 七 海



3歳ごろからチェロを始め、大学入学後訳あって一度チェロから離れたが卒業後、中島クラスの仲間にオケをやらないかと声をかけてもらったことをきっかけに、私のチェロ人生が再び動き出す。中島先生にチューニングをただけで練習の状態を見抜かれ、毎週緊張していたあの頃の記憶も、今では大切な思い出として心に残っています。幼い頃眠りそうなところを支えて貰いながら出演した「1000人のチェロ」や、最後はいつも眠過ぎて意識が飛んでいた合宿や夏季学校——そんな修羅場(?)を共に乗り越えてきた仲間たちと、再び同じ舞台上で音を重ねられることに深い感動を覚えています。

そして、多くの生徒を育て上げ、音楽の喜びと奥深さを教え続けてくださった中島先生への敬意と感謝の気持ちは尽きません。

本日の演奏が皆さまの心に残るものとなりました幸いです。

村 山 奈 津 子



大学でオーケストラ部に入り練習漬けの毎日を過ごす。落単しながらも無事に卒業。現在は会社員として働く傍ら趣味としてチェロを続けています。ベルリンフィル主催のBe Phil Orchestra Japan2023参加。小さい頃は練習が嫌でよく反発、中島クラスなら誰もが通る「1000回練習」に約2年かかったマイペースな生徒でしたが、今やチェロは最高の相棒になりました。音楽を通して沢山のひとと出会えたことが自分の人生の財産になっています。チェロを習うきっかけを与えてくれた母、サポートしてくれた家族、熱心にご指導くださった先生に改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

中島先生のもとで育った仲間がチェロを片手に全国から集う、これほど素敵なことはありません。中島クラスの一員でいられて嬉しいです。久しぶりのチェロアンサンブル、楽しみにしています！

辻 尚 希



中島先生、中島クラス開講55周年、心よりお祝い申し上げます。また、今回のアンサンブル中島の企画にご尽力いただいた皆様には、このような素晴らしい場を設けていただき深く感謝申し上げます。

かつての中島クラスの仲間や先輩方こうして再び一緒にチェロを演奏できる機会そのものを、大変貴重に感じております。それぞれが全く別の道に進んでいたとしても、チェロを通じて輪が広がり、世代を超えて縁が続いていくこの関係性が、本当に素敵だなと実感しています。今回のアンサンブルの練習にて、先生が「私たちはアマチュアでもプロでもなく、中島クラスである」とおっしゃっていたのがとても強く印象に残っています。本番ではその言葉を胸に、中島クラスらしい音で演奏できるよう、精一杯頑張ります。



西尾 彰 紘



15年間、多治見教室在籍。現在、京都大学医学部医学科6年生。
高校卒業以降、中島クラスの皆さんとお会いする機会はなかなかありませんでした。今回、年末の練習で久しぶりに中島先生や先輩・後輩の皆さんにお会いし、一気に生徒だった頃の懐かしい気持ちがよみがえりました。
時が経っても変わらない関係でいられることの喜びを、このアンサンブルナカジマで感じました。

2年前、「アンサンブルナカジマをやりたいよね！」と同世代で語り合った思いが、このように形となったことが本当に嬉しいです。今日までの間、多くの準備を進めてくださった事務局の皆様、お手伝いいただいた保護者の皆様、ご指導くださった先生方に、心より感謝申し上げます。

再び集まることができた喜びと感謝を胸に、全力で演奏します！

矢島 輝 祐



中島先生のご指導の下、チェロと素敵な同窓に恵まれた15年の時は生涯持ち続けたいと思えるものであり、しかし今となっては遥かに遠いものでもあります。そうした日々を回顧するに、諸々の機会と時間を随分とおざなりに扱ってきてしまったことに対する心残りを覚えるのは事実です。

それでも、こうして集う場があるおかげでつい昨日の事のように色を取り戻す感覚や思い出も確かにあり、そのことに感謝するばかりです。私自身は残念ながら一回性を音に乗せるような技量を持ち得ませんが、このアンサンブルで演奏した全員、そして聴いていただいた皆様にとって永く残る思い出となるものを作り上げる営為、その一助は果たせるように取り組みたいです。

浅田 健 頼



僕にとって二度目のアンサンブルナカジマへの参加となります。前回は楽譜も十分に読めず、必死に弾くことで精一杯で、正直どうやって乗り切ったのかもあまり覚えていません。それでもあの経験は自分にとって大きな一歩でした。あれから8年、少しずつ音楽と向き合い続けてきた中で、自分なりの成長を感じています。今回のステージでは、その積み重ねの一端でも感じていただけるよう、心を込めて演奏したいと思います。



天野 航 太 郎



現役生として参加した前回から8年、今は東京にいます。大学のオーケストラに入り、想像以上にオケ、というか楽器にハマり、今は色々なオーケストラでチェロを弾いたり、室内楽やったりしています。教室に通っていた頃はなんとなーく弾いていた(?)チェロも今では楽しく、弾く理由をしっかりと持って続けることができています。

昔と環境は変わっても、中島先生を慕ってこうして沢山の人が集まり、昔と同じ呼び名で呼びあって、近況報告や昔話に花を咲かせられる、こんな素敵な機会はそうそうないよなあ、と年末の合宿の帰り道にふと思いました。そしてそんな場所に自分がいられることがとても嬉しいなと思います。現役生ぶりの名古屋でのコンサート、全力で楽しみたいと思います！



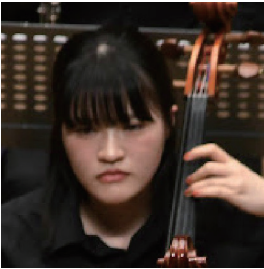
矢島華那



現役生の時に2度参加させていただいたアンサンブルナカジマ、素敵な先輩方と一緒に演奏した経験は何にも変え難いものになりました。

OGとして参加する今回、自分があの時の先輩方のような存在になれていたら、心から嬉しいなと思います。私は高校生の時、学校に行けなくなった時期がありました。落ち込んで辛い毎日でも、幼い頃から続けてきたチェロは自分の中で揺るがないもので、心の支えでした。そして、いつもと変わらず温かく接してくれたみなさんのおかげで少しずつ元気になりました。家族はもちろん、チェロを通して出会った先生方やお母様方、一緒に頑張ってきた友達に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。今は自分にとって一番誇れるものとなったチェロ、感謝と喜びをもって演奏します。

三浦千尋



中島クラスを卒業して3年が経ち、現在は大学のオーケストラサークルに所属し、チェロを続けています。オーケストラは、さまざまな楽器がそれぞれの役割を持ちながら多彩な旋律を奏で、一つの音楽を創り上げていくところに大きな魅力を感じています。日々の練習の中で、周りの音をよく聴きながら自分の音をどう溶け込ませるかを意識することの大切さを学びました。今回のチェロアンサンブルでは、その経験を生かし、周りの方々と息を合わせながら、より豊かな音楽をお届けできるよう精一杯演奏したいと思います。よろしくお願いします。

松浦未歩



12年間、覚王山教室 / 一社教室在籍。

4歳よりチェロを始め、現在、大学2年生。

両親の母校である大学に入学し、さらに両親が所属していた管弦楽団にも入団し、現在もチェロを弾いています。不思議なご縁を感じています...

高校1年生のときに一度チェロから離れたものの、大学入学後に再び弾き始め、改めてその魅力に惹かれています。今回は初めて念願のアンサンブルナカジマに出演させていただき、さらに父と一緒に演奏することができ、大変嬉しく思っています。

角田佳彦



小さい頃からチェロをやっていて、苦しいことばかりと思っていたけれど、大学に入ってオケに参加して、初めてチェロやっていてよかったと思いました。みんなで音楽を作る楽しい経験、本当素晴らしいです。

今回、アンサンブルナカジマに参加できたのも、得難いことだと思っています。いい音楽を、皆様にお届けしたいです。

中村 薫



今回、アンサンブルナカジマに初めて参加させていただきます。前回は客席で、こんなに美しくて迫力のある演奏ができるものなんだなぁと感動しながら聴いていました。そして実際に演奏する側になって、アンサンブルの難しさを知ると同時に、その楽しさや奥深さを実感しました。本日お越しいただいた観客の皆様のために、そして物心ついた頃からずっとお世話になっている中島先生への感謝を込めて、ほんの微力ながら全力を尽くして演奏します。

一音一音を大切に、心を込めて演奏いたしますので、最後までお楽しみいただけたら幸いです。



浅田基頼



私は3歳の頃からチェロを続けており、最近ではこれまで嫌いだったチェロのお稽古も現役を卒業してようやく楽しく思えるようになりました。

今回のチェロアンサンブルの練習では自分から練習をするようになったり、合奏でも自分ならこの音をどう弾くかとかを考えたり、みんなと弾く演奏というものが非常に楽しく感じるようになりました。

なので本番では自分らしく楽しんでやチェロの皆さんと音を合わせ精一杯弾けるように頑張ります。

相川 諒 慈



高校3年生の相川諒慈です。この度初めてチェロアンサンブルナカジマに参加させていただきました。世代を越えて先輩たちと一緒にチェロを弾けることは言葉に表せない感動がありました。チェロアンの練習が始まった当初、現役生はヴィラロボスのブラジル風パッサは弾かないと聞いていて、しかもその曲が難しいとのことだったため正直ほっとしていました。しかしチェロアンの2回目の練習の時に中島先生に呼び出され「ヴィラロボスは3番と8番どっちがいい？」と訊かれました。どうやら私は私の知らない間に地獄への片道切符を手にしているようでした。もしかすると中島クラスに入った時から背中に貼ってあったのかもしれませんが…。そんなわけでこれからも頑張ります。

服部 政 成



現役生として最後の年にチェロアンサンブルナカジマに参加できることを大変嬉しく思います。幼い頃にこの演奏会を訪れ、多くのチェロが一つとなって同じ曲を奏でる姿に圧倒され、今でも印象に残っています。そして今、その舞台に立てることにとても嬉しく思います。練習では多くのOB・OGの方々と交流する中で、自分の実力不足も実感しました。本番ではチェロアンサンブルナカジマの一員としてふさわしい演奏ができるよう、全力を尽くします！最後に、この貴重な機会をくださった中島先生に心より感謝申し上げます。

原 直 史



今回初めて参加させてもらったチェロアンサンブルナカジマを通して学んだことがたくさんありました。こんなに大規模な機会と一緒に演奏させてもらえることをすごく貴重に感じています。自分のパートだけではなく他のパートとの調和という視点を意識して強弱や弓の使い方を変えるというのはとても難しかったです。「聴きながら弾く」ということの難しさを感じました。

練習のたびに色々な先輩方が音楽的なことを教えてくださったのが心に深く残っています。練習を重ねるうちに少しずつ曲の魅力や抑揚を体で感じる事ができ、嬉しかったです。

渡 邊 寛 久



僕は今回、アンサンブルに初めて参加します。そのため、長谷部一郎さんが練習に来られたときの高橋さんとの話し合いは、とてもレベルが高く、最初は内容についていくことができませんでした。しかし、練習を重ねるうちに、少しずつ話の意味や考え方がわかるようになり、音楽の奥深さや面白さを感じることができるようになりました。

普段の休日はクラブチームで野球をしているため、アンサンブルとの両立が難しく、参加できない練習もありましたが、精一杯頑張りますので、全体のハーモニーを感じながら楽しんでいただけたら嬉しいです。



原 実 史



僕は、今回の『チェロアンサンブルナカジマ 2026』の合宿に参加したときに、集まった人数の多さとメンバーの幅広さに驚いた。予想を超える人数で、これほど多くの中島クラスの先輩方がいるということに中島クラスの歴史と広がりを感じて実感した。また、年齢も仕事も多種多様な方々がいて、この大勢の皆さんと演奏できる機会はすごく貴重だと感じた。最初の練習の頃はとても緊張していたが、何回も練習で一緒に演奏させていただくうちに、チェロアンサンプルの深みを少しずつ感じられるようになった。この機会に感謝して、精一杯演奏したい。



中 島 顕



コントラバス
青山 小 枝



ピアノ
原 田 綾 子



ステージマネージャー 渡邊 亮

Photo 天野 麻里



令和8年5月5日(火・祝)
開場 13 : 30/ 開演 14 : 00